

令和元年度 自己評価結果

認定こども園土崎幼稚園

大変よい：A よい：B 普通：C 一部検討を要する：D 改善を要する：E

評価項目	取組状況	評価
教育・保育目標について	<p>建学の精神や教育目標について、園の目指す方向性は職員会議や園内研修の中で、具体化されて話し合っている。子どもの実態を踏まえて教育目標を設定していることと、地域の特色を生かしているという評価が高かった。</p> <p>課題としては、全体的な計画等に社会の要請や保護者の願いについても応えるとともに、全体で話し合って作成していく必要がある。</p>	A
指導について	<p>子どもの実態に即した指導計画を作成していくことと、実践後の指導の改善に努めることが改善され、改善への取組がよく行われるようになった。</p> <p>更に努力することとして、環境構成の工夫や教材・教具の活用について、日常的に一人一人の子どもに合わせた工夫をしていく取組が求められる。</p>	A
教育週数・教育時間について	<p>年度当初の計画に基づいて行われていて、週数と教育時間の確保に努めている。</p>	A+
行事について	<p>行事については、学期ごとや大きな行事の後に反省を行っているが、年長組に行事が多くあるので検討を要する。また、行事のねらいに合わせてもう少し子どもの自主的な活動へと高めていくように話し合っていく必要がある。</p> <p>行事はどれも子どもたちにとって楽しく刺激を得る良い活動なので削減していくことは難しい状況である。</p>	A
分掌・体制について	<p>職務内容が明確で、協働しながら行うように努めていて、体制としては仕事が一部に偏らないように配慮している。担当者は自分の役割をもっとしっかり認識し、責任をもって進めていくことが最も大事である。</p>	A
運営について	<p>教職員は、全体的な立場で協力し園運営に取り組んでいるが、職員が共通理解をしていくための会議や学年等での打ち合わせについては、時間を厳守して時間内に終わることができるように更に努める必要がある。また、連絡等については、担当者が自分なりの計画を提示し、会議の時間短縮を図っていく必要がある。</p>	B+
学年・学級経営について	<p>今年度も記録の仕方を改善し、補助の先生も含めて子どもの様子を共有できるようにしてきた。記録したものはファイル化などして学級経営や目標設定に生かすようにしていくことが課題である。</p>	A

評価項目	取組状況	評価
保健・安全指導について	保健・安全については、月目標を設定して子どもたちにも意識できるように工夫している。ホールや外・正面玄関等にカメラを設置し、安全指導に役立てるようにした。	A
園内研究・研修について	わくわくタイムがなかなか設定できず、短時間でも研修できる工夫をしていく必要がある。園外研修にも積極的に参加して園内の教育・保育の向上に努めている。これからは活動計画に基づいて実践した成果をお互いに話し合う園内研修を充実させ、本園の教育・保育の目指す方向を確認し合って深めていくことが重要である。	A
園外研究・研修について	園外の研究・研修会や講演会などに参加して、教育・保育についての学びの深まりを感じている。キャリアアップ研修に大いに参加して学ぶ機会が増している。	A
保育記録について	保育記録を毎日行っており、学級や学年間で情報を共有することができている。また、次の保育に生かそうと努めている。 この記録を通して、保護者や地域へと発信していくことについては、現在試行中で来年度の大きな課題として位置づけている。	A
安全管理について	遊具等は毎日点検し、危険な場所や遊びについて気を付けながら指導をしている。 今年は不審者対応の研修を外部機関と連携して行い、日常的な安全管理や指導が高まってきている。	A
学校間交流・連携について	学校間の交流・連携は継続して行われてきているが、毎年決まった内容で行われている。小学校の先生を交えての研修会をもって幼児教育についてもっと理解してもらう必要性を感じているが、今年もできなかった。どのようにして連携していくのがよいのか、今後とも考えていく必要がある。 園内での活動に追われている毎日で、他校種との交流まで手が回らないことが課題である。	B
家庭・地域社会との連携について	園からの便りや担任と保護者との情報交換は密に行われていること、他専門機関との連携を図っていることはこれからも進めたい。 保育者の思いや意図が家庭へなかなか伝わらないことがあるので、伝え方を工夫していく必要がある。特に子どもの成長や遊びの記録を発信して教育・保育について理解してもらうことが必要がある。 また、保護者から育児に関する「子育て相談」の希望者がいない。個人面談には協力してくれているが、保護者対象の研修を行うなどして、色々な情報を発信していく必要がある。 ホームページでは、担当者いない現状で、なかなか新しい情報を発信できないでいる。	A